

1.2. 湖岸植生帯の保全に係る検討会の概要

(1) 霞ヶ浦の湖岸植生帯の保全に係る検討会の開催

「霞ヶ浦の湖岸植生帯の保全に係る検討会」の設立趣旨書

1. 検討会設立趣旨

国土交通省霞ヶ浦工事事務所と水資源開発公団霞ヶ浦開発総合管理所では、これまで湖岸の植生について、ヨシの植栽及び波浪対策等の保全対策を講じてきたが、平成8年度の霞ヶ浦開発事業の管理移行後から実施しているモニタリング調査等において、植生帯の減退が進み、特にアサザを含む浮葉植物等の減少が確認されている。

絶滅危惧種であるアサザの保全については、これまで学識経験者から指摘を受けており、また「霞ヶ浦・北浦をよくする市民連絡会議」からも、この保全について申し入れがあった。

これらの状況を踏まえ、霞ヶ浦のアサザ群落を含む水辺植生の減退の原因究明及び保全対策に係る「霞ヶ浦の湖岸植生帯の保全に係る検討会」（以下「検討会」と云う）を設置するものである。

2. 検討事項

- (1) 「アサザ群落を含む水辺植生減退の原因究明」
- (2) 「アサザ群落を含む水辺植生の保全対策の検討」

3. 検討の進め方

- (1) 検討会は、公開を原則とする。
- (2) 検討会での検討内容は、霞ヶ浦開発事業モニタリング委員会へ説明する。
- (3) 既往の諸データを整理・総括するとともに、必要な解析、追加調査等によるデータの補充等を行って、アサザ群落を含む水辺植生の減退の原因究明及び保全対策の検討を行う。

霞ヶ浦の湖岸植生帯の保全に係る検討会の構成委員

氏名	所属(所属は当時のもの)
座長 山本晃一	河川環境管理財団研究総括職
飯島 博	NPO 法人「アサザ基金」代表理事
石川忠晴	東京工業大学教授
桜井善雄	信州大学名誉教授
鷺谷いづみ	東京大学教授
島谷幸宏	土木研究所河川環境研究室長
中村圭吾	土木研究所河川環境研究室研究員
藤原宣夫	土木研究所緑化生態研究室長
西廣 淳	土木研究所緑化生態研究室研究員
鳥居謙一	土木研究所海岸研究室長
飛田忠一	国土交通省霞ヶ浦工事事務所長
遠藤信夫	水資源開発公団霞ヶ浦開発総合管理所長

霞ヶ浦の湖岸植生帯の保全に係る検討会の開催経緯

検討会開催日	検討会名	検討会開催場所	検討会審議項目
平成12年11月14日	第1回検討会	茨城県土浦市市内ホテル	1. 検討会設立趣旨・基本理念 2. 植生の現状(植生、アサザ) 3. 次回の作業仮題
平成13年2月14日	第2回検討会	茨城県土浦市市内ホテル	1. 霞ヶ浦の環境の現状と変遷 2. アサザ保全のための緊急対策地区の選定 3. 対策工構造案 4. アサザ基金による保全運動報告 5. 水位変動パターンと植生生態の関係
平成13年5月21日	第3回検討会	茨城県土浦市市内ホテル	1. 各地区の緊急対策工構造案 2. 事前モニタリング調査計画
平成13年12月17日	第4回検討会	茨城県土浦市市内ホテル	1. 緊急対策工の詳細設計案 2. 湖岸植生の復元手法 3. 維持管理手法 4. 事後モニタリング調査計画
平成14年7月23日	第5回検討会	茨城県土浦市市内ホテル	1. 湖岸植生減退要因の検討(仮説)

(2) 「霞ヶ浦湖岸植生帯の緊急保全対策評価検討会」の開催

「霞ヶ浦湖岸植生帯の緊急保全対策評価検討会」の設立趣旨書

1. 検討会設立趣旨

国土交通省霞ヶ浦河川事務所と水資源開発公団霞ヶ浦開発総合管理所では、絶滅危惧種であるアサザを含む霞ヶ浦の湖岸植生帯の減退を改善するため、湖岸植生の保全及び新たな創出を目指し、平成12年度から2か年にわたり、「霞ヶ浦の湖岸植生帯の保全に係る検討会」で検討を行った。

その結果、緊急的な対応が必要と提言された緊急対策地区11地区において、平成12年度～13年度にわたり湖岸植生の緊急対策工を整備した。また、検討会では、湖岸植生の復元は未知な点が多いことから、モニタリング調査を行いつつ、調査結果に基づいた順応的な管理（アダプティブマネジメント）を実施し改善していくことも提案され、平成14年度からモニタリング調査を実施している。

以上の経緯を背景に、国土交通省霞ヶ浦河川事務所と独立行政法人水資源機構霞ヶ浦開発総合管理所は、緊急保全対策工の設計水位をYP+1.3mであることを前提とし、モニタリング調査結果に基づく緊急保全対策の評価を行うこと及び今後の湖岸保全対策のあり方を検討することを目的として、「霞ヶ浦湖岸植生帯の緊急保全対策評価検討会」（以下評価検討会という）を設置することとする。

2. 検討事項

- (1) 霞ヶ浦湖岸植生帯の緊急保全対策の評価
- (2) 評価結果を踏まえた順応的管理手法の検討
- (3) 今後の湖岸保全対策のあり方に関する検討

3. 検討の進め方

- (1) 評価検討会は学識者からなる委員によって構成される。
- (2) 評価検討会は、公開を原則とする。
- (3) 科学的な立場から評価・検討を行う。
- (4) 検討結果の公表は、国土交通省霞ヶ浦河川事務所と独立行政法人水資源機構霞ヶ浦開発総合管理所が行う。

■ 「霞ヶ浦湖岸植生帯の緊急保全対策評価検討会」委員

氏名	所属	専門分野	備考
椎貝 博美	元(社)日本河川協会 会長	河川工学	座長(～H19.1.17)
池田 駿介	東京工業大学大学院理工学研究科 教授	環境水理学・流体力学	座長(H19.1.17～)
佐藤 慎司	東京大学大学院工学系研究科 教授	海岸工学	
角野 康郎	神戸大学理学部生物学科 教授	植物生態学	
佐々木 寧	埼玉大学工学部建設工学科 教授	植物生態学	
花里 孝幸	信州大学山岳科学総合研究所山地水域環境保全学部門長, 教授	陸水生態学・生態毒性学	

■ オブザーバー（「霞ヶ浦の湖岸植生帯の保全に係る検討会」委員）

氏名	所属	専門分野	備考
桜井 善雄	信州大学名誉教授、応用生態学研究所 主宰	応用生態学	
鷺谷 いづみ	東京大学大学院農学生命科学研究科 教授	保全生態学	

□ 委員会での審議の様子



・平成19年1月19日に開催された第6回評価検討会の審議風景(財団法人 河川環境管理財団会議室にて)

□ 委員の現地見学会の様子



・佐々木委員、石田地区にて(平成18年10月12日)

・角野委員、根田地区にて(平成18年9月13日)